

市長	副市長	部長	課長等	リーダー	担当	供覧	報告者

第11回養父市振興計画審議会会議録

期 日	平成22年6月24日(木)午後1時30分～4時30分
-----	----------------------------

場 所	養父市立養父公民館 1階他産業就業研修室
-----	----------------------

出席並びに 欠席委員	委員氏名		出欠等	委員氏名		出欠等
	出席18名 欠席7名	会 長	荒田幹夫		委 員	飯屋美子
凡例 :出席 ×:欠席	副会長	大林賢一		委 員	宇都良栄子	
	副会長	正垣道子		委 員	梅井逸郎	
	委 員	池田和揮	×	委 員	村上隆司	
	委 員	山下邦子	×	委 員	田淵久和	
	委 員	雑賀 学		委 員	吉田明博	
	委 員	圓山 光	×	委 員	米田一之	
	委 員	松岡 勇		委 員	池田ビルギット	×
	委 員	田中今子	×	職員委員	満田理恵	
	委 員	田村 譲		職員委員	奥藤 啓	
	委 員	山根美智子		職員委員	井平 聡	
	委 員	小松原貴美子		職員委員	塚本 竜	×
	委 員	藤原光子	×			

アドバイザー	松原永季・スタジオ・カタリスト代表取締役					
--------	----------------------	--	--	--	--	--

事務局	政策監理部長	児島一裕	×	企画政策課主幹	藤野英希	
	企画政策課長	栗田伸一		企画政策課主査	田村 亘	
	まちづくり課長	阿部 稔				

1 開会

(大林副会長) できれば、本日、大黒柱を決めたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

2 あいさつ

(荒田会長) 大黒柱について、3回、10時間議論している。時間がかかっているが、意義はあったと思っている。第1回審議会から議事録を見直してみた。みなさんの意見は同じ方向で、一途に養父市を良くしたいという思いを感じる。多くの意見をいただいているので、議論は出つくしていると思う。今日は、松原アドバイザーの思い、行政の思いも参考にしながら、委員の総意として大黒柱を決め、次のステップに進みたい。

3 進め方の説明～本日とこれから～

(松原アドバイザー) プログラムにより本日の進め方を説明。

4 前回の振り返り

(松原アドバイザー) 前回は、体調を崩して欠席し、失礼した。当日は意見交換されたと聞いている。ユニバーサルという考えを持ちたいという市の意見や、より具体的なものがないという意見、その他、さまざまな意見が出たが、まとめるには至らず、次回に(今回)まとめることになったと聞いている。

5 「総合計画の大黒柱(案)」の検討

(松原アドバイザー)

(1) 「総合計画の柱と副題の検討にあたって(方針案)」に基づき、合意形成、話し合いのルールを確認した。

(2) これまでの経過の確認として、5つの柱(第7回審議会まとめ:4月15日開催)と、将来像のキーワード(第8回審議会まとめ:5月13日開催)、そのキーワードを踏まえた大黒柱と副題(第9回審議会まとめ:5月27日開催)を再確認した。

(3) 総合計画の大黒柱、副題(案)の提案と説明

大黒柱として「響き合う心、世界へ拓く結の郷 やぶ」を提案。提案理由として、前々回の話し合いの中で提案されていた言葉で、「やろうで!養父市」の次に投票が多かった。「結」という言葉は、昔へ戻るというイメージがあるという意見があったが、「世界へ拓く結の郷」であれば古いものではなくなる。「響きあう心」は前計画にも使われており、5年前に決めたことの延長となり、さらに先に進めようという言葉である。また、5年前の議会で議決されており、説明もしやすいのではないかと。「拓く」は5つの柱の中にも入っており、経済的なことも含んでいる。

副題として「教育と交流と居住のまち」を提案。提案理由として、前々回では、「人間力・ふるさと力・資源力を生かしたまち」が、投票が一番多かったが、具体的に何をどう進めるのかを示すためには、具体的に「教育」、「交流」、「居住」とした方が分かりやすい。今までも、教育が大切であるという意見が多く出されていた。

キャッチフレーズとして、「やろうで!養父市」を提案。提案理由として、この言葉は何らかの形で残した方がいいという意見があったこと。また、今後、パンフレットやポスター等、広報媒体が作られる際に、その中でキャッチフレーズとして使っていきたい。

(4) 旗あげアンケートにより、委員の意見を確認。

アンケート結果では、「良い」6人、「良いが意見がある」3人、「一部変えたい」8人、「納得できない」1人、「その他」0人

「納得できない」の意見として

- ・ 「結の郷」がなくてもいいのではないかと。副題にインパクトがない。普通すぎて、さらっと流されるのがもったいない。

「良いが意見がある」の意見として

- ・ 全体的に良い。世界よりも近い将来をイメージした方がいい。
- ・ やさしすぎる。力強さが出てくる言葉がいい。
- ・ 副題が、もっとアピールできる言葉の方がいい。
- ・ 副題は、具体化していくのに心配がある。

「一部変えたい」の意見として

- ・ ピンとこない。教育と交流は分かるが、居住が分かりにくい。
- ・ 「響き合う心」と「結」という心の面が重なる。「響き合う感動」にしてはどうか。
- ・ 超高齢社会を迎える。希望をもってやっていける、期待できるものがほしい。
- ・ 「福祉」という言葉がない。10年後、20年後にはお年寄りばかりになる。助け合い、認め合い、支え合うという言葉がほしい。
- ・ 「世界」の範囲が分からない。「世界」は大きすぎる。副題は行政的なにおいがする。
- ・ 「世界へ拓く」は外向き、「結」は内向きで相反するので、「結の郷」を「21世紀のふるさと」に変えてはどうか。副題に漢字が続いているので、「学びと遊びと喜びのまち」とし、うれしくなるようなまちのイメージにしてはどうか。
- ・ 「響き合う」は「響きあう」の方がいい。副題の「居住」が引っかかる。
- ・ 具体性がない。大黒柱に「人口3万人」を入れてほしい。

「良い」の意見として

- ・ 「響き合う」は含蓄のある言葉である。養父市を打ち出すには、「人間力」しかない。原点の人間に戻る。養父市から全国を変える。東アジアから、世界から多くの人がある。養父市で勝てるものは「人間力」しかない。養父市でどうして再生するのかを示し、副題に戦略性を含めている。
- ・ 養父市の身近なことだけではなく、世界、全国を見据えた高い志を持つ。「結」は、自然、人、未来への結びつきの意味もある。何を指すかは副題を見れば分かり、5つの柱へとつながる。端的に分かりやすく、つながっている。
- ・ 教育の世界でも「グローバル化」が言われているが、伝統文化も必要と言われている。「世界」と「結」

は相反するものではない。

その他の意見として

- ・ 「響く感動」にしてはどうか。
- ・ 教育は大切であるが、教育した子どもの受け皿となる仕事、「業」が大切ではないか。
- ・ 「響く感動」の方がわくわくする。芸術的である。
- ・ チェロコンクールなど、養父市には今まで積み上げてきた感動の実績がある。
- ・ 「人口3万人」も具体性がないと「絵に描いた餅」となる。目標を市民に分かりやすく伝えるべきである。
- ・ 「再生養父市民3万人計画」をキャッチフレーズにしてはどうか。

大黒柱まとめ 「響く感動 世界へ拓く結の郷 やぶ」とする。

副題「教育と交流と居住のまち」について

- ・ 「学びと遊びと喜びのまち」は、教育を学びに変え、交流を遊びに変え、喜びは安らぎ、安心を意味する。
- ・ (事務局)今までのものでは、議会、住民から分かりにくいという意見があり、将来の姿が分かるものが極力ほしいと思う。担当としては「教育と交流と居住のまち」としたい。
- ・ 将来、予算規模が小さくなる中、住んでもらう(居住) 来てもらう(交流)しかない。それで、何を切り口にするかは教育しかないと思う。結果として人口が3万人になる。経済を高めるために何を切り口にするか。
- ・ 「教育」とは、学校教育と捉えていた。
- ・ (松原アドバイザー)学校教育だけではなく、生涯学習も入るし、自己実現のための学びも入る。
- ・ 学びでは、拡散してしまう。
- ・ 政策的には「教育と交流と居住のまち」の方がいいし、職員としても動きやすい。
- ・ 工場は来ない。その代わりに養父市に住んでもらう。
- ・ 居住は、住宅施策ではなく、住みやすいまちをイメージしていた。
- ・ 居住は、ベッタウン的なイメージがある。
- ・ アパート等を含めた居住ではなく、定住を目指すのではないか。
- ・ (事務局)議会から「教育と福祉と定住のまち」という考えはないかという一般質問が出ていた。
- ・ 職員は担当者ではなく、専任者になってほしい。職員も勉強してほしいということを含めて「学び」としたい。
- ・ 教育は人を育てていく、全国共通である。福祉を重点にしていけないといけない。

副題まとめ 計画の体系、事業の優先順位を検討する中で再度検討することとして、一旦は「学びと交流と居住のまち」にまとめることとする。

7 閉会
(正垣副会長)